

家庭菜園相談室

今月の
テーマ

「若いうちから順次収穫して楽しもう！～ゴボウ～」

ゴボウには、長根種と短根種があります。家庭菜園では栽培が容易な根長40cm前後の短根種（ミニゴボウ）がおすすめで、やわらかいのでサラダに向きます。若い根と葉柄を食べる葉ゴボウもあります。連作を嫌うので、4～5年おきの輪作になるように畑の配置を考えましょう。

図1 作型目安

	種類	作型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ゴボウ	長根種	春まき			●	●					■	■	■
		秋まき							■	■	■	●	●	
	短根種	春～夏まき				●	●						
									■	■	■	■	■	■

● 播種 ■ 収穫



栽培のポイント

- 生育適温は20～25℃で、地上部は3℃で枯れますが、根部は-20℃にも耐えます。乾燥には強いですが多湿に弱いです。
- ゴボウの“す入り”の原因は、老化現象なので、早めに収穫します（“す”が入っても食べられます）。

作ってみたい品種

- ダイエット : 短根種で、サラダなどの生食に向いている白肌のやわらかい品種です（春～夏まき）。
- てがる : 家庭菜園に適した短めのサイズで、品質・香りの良い超極早生種です（春～夏まき）。
- サラダむすめ : 春まき100日程で収穫できる短根の超極早生種で、サラダに適しています。
- 葉ごぼう : 1～4月頃の若い根と葉柄を食べます。食物繊維や鉄分を豊富に含んでいます（秋まき）。

畑の準備 : 種まきの2週間前に苦土石灰150g/m²と堆肥3kg/m²を施し、深さ30cm位までよく耕します。

1週間前には化成肥料（畑作名人N:P:K=13-13-13）100g/m²を施し、よく耕します。

畝幅60cm、高さ10～15cm程に畝を立てます。畑は根の長さまで深く耕し、根が変形する原因となる土中の石を取り除いておきます。

高畝にすればその分深く耕さなくても済みます。

種まき : 種は一晩水につけておくと発芽しやすくなります。畝の表面を平らにならし、深さ1cm、条間15～20cmのまき筋をつけます。短根種で3～10cm、長根種で15～20cm間隔で1カ所に3～4粒ずつ種をまき、種が隠れる程度に土を薄くかけ、軽く鎮圧します。まき終わったら不織布をかけて、優しくたっぷり水をかけます。発芽まで土を乾燥させないようにします。

間引き : 子葉が開いた頃に1回目の間引きを行います（不織布はここで外します）。本葉1～2枚で2回目、本葉3～4枚で3回目の間引きを行い、1本にします。2回目以降の間引きは根が深く張るので、他の株を傷めないようにハサミなどで株元から切り取ります。

追肥・土寄せ : 3回目の間引きをした後、化成肥料（N:P:K=8-8-8）を30～50g/m²程度施します。株の周りを軽くかき混ぜ、株元に土寄せします。

病害虫防除 : アブラムシなどの害虫は、防虫ネットで予防できます。早期防除を心掛けましょう。

収穫 : 長根種は根茎が2cm位になったら収穫します。春まきでは10月以降、秋まきでは翌年の6月以降が収穫時期になります。ゴボウの脇の土を深く掘った後、引き抜きます。

短根種は品種によって収穫時期が異なりますが、播種後75～100日の6～12月に、根茎1～2cmのものを収穫します。

ゴボウの袋栽培

ゴボウの袋栽培をすると収穫作業が楽になります。短根種を栽培する場合、培養土の袋（250程度）などの底に水抜き穴を開けて、用土を入れて株間5～8cmに種をまくと、袋を破るだけで収穫できます。長根種の場合は、袋の底を切り取り、設置面（地面）も耕しておきます。

家庭菜園に関する相談は、営農経済センターのTAC（タック）までご連絡ください。